

令和7年度 国立中央青少年交流の家
全国高校生体験活動顕彰制度(ちいぷろ！)

富士のさと 高校生地域探究プログラム

「オリエンテーション合宿」【Take the first step】

令和7年7月19日(土)・20日(日)・21日(月・祝) 2(0)泊3日



○趣旨

「批判的思考力」、「問題解決能力」、「コミュニケーション能力」を身に付けさせるとともに、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた取組を行うことで、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する人材を育成する。

○参加者 高校生 32名(宿泊24名、日帰り8名)

○事業の内容 11科目 22単位時間

(1) ガイダンス

国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 間瀬 哲章

アイスブレイクによって仲間づくりを行った後、全国高校生体験活動顕彰制度とオリエンテーション合宿の説明を受けるとともに、探究的な学びを進めていく上での心構えを学んだ。



(2) 講話「地域づくりの実践①」

NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏

地域づくりを実践し、ファシリテーション研修も行っている講師から、地域づくりの実践の現状を学ぶとともに、良いグループワークの進め方についての講義を受け、演習を行った。

(3) フィールドワーク①「地域の魅力を発見」

- ・秩父宮記念公園 齋藤 雅斗 氏(観光)
- ・有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏(茶業)
- ・富士勇和産業 長田 友和 氏(茅)
- ・NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏(放置竹林)

地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見するとともに、地域が抱えている課題について考察した。



(4) 講義・演習①「地域理解」②「課題解決の基礎」

国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 間瀬 哲章

講義・演習①では、グループ協議においてフィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深めた。

講義・演習②では、フィールドワーク①において一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイディアによる仮説(解決策)を立て、グループ全員で共有した。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討し、まとめた。

(5) フィールドワーク②「地域課題の探究」

- ・秩父宮記念公園 中野 陽司 氏(観光)
- ・有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏(茶業)
- ・富士勇和産業 長田 友和 氏(茅)
- ・NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏(放置竹林)

講義・演習②で立てた一人一人の仮説をグループで検証するため、講師へのインタビューや質疑応答等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動(解決策)を探ったりした。

(6) 講義・演習③「地域課題の探究」 発表①【グループ発表】

国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 間瀬 哲章

講義・演習③では、フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして1番良いと思う解決策を思索した。

発表①では、講義・演習③の成果として、より有効な活動(解決策)とその根拠についてグループ発表を行った。その際、伝えたいことや構成を明確にするなどのプレゼンテーションの基礎についても学んだ。

(7) 講話「地域づくりの実践②」

浜松聖星高等学校 野村 奏実 さん

昨年度のオリエンテーション合宿に参加し、地方ステージにエントリーした高校生の取組を聴くことにより、よりよい地域づくりを実践していくための意欲を高め、行動計画の参考とした。

(8) 講義・演習④「行動計画の基礎」

発表②〔個人発表〕

国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 間瀬 哲章



講義・演習④では、オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成した。発表②では、個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有した。

(9) 実践活動のためのガイダンス

国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 間瀬 哲章



実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解するとともに、実践活動や地域探究アワードなど今後の日程や手順について確認をした。

《事後アンケートより》

【『事業全般』に関する満足度】 4段階評価で3以上100%（4が約90%）

- ・とても話しやすい雰囲気で、グループワークやフィールドワークがやりやすかった。
- ・将来必要になるアイデアを出す力や課題解決力がこの3日間とんでもないスピードで養うことができた。
- ・無駄な要素がなくて、全てがためになるような事業だった。
- ・サポートが充実していて、探究にしっかりと向き合えて自分のレベルアップに大きくつながった。
- ・プログラム構成が良く、参加するだけで探究活動とは何かを深く学べた。
- ・自分のみではできなかったことができ、知らなかったことをたくさん知ることができてよかった。また興味のなかったことに対して関心が持て、交友関係が広がる機会になり素敵な事業でした。
- ・今までなんとなくやって迷子になっていた探究を順序立てて考えていくことができるようになった。

【「ぜひまた『探究』してみたい」と思えた】 4段階評価で3以上100%

- ・話し合いや考えることが楽しいと思えた。（多数）
- ・同じ意識を持った仲間と探究することによって、楽しく効率的にできて最高だった。
- ・固定化していた概念が崩れて、新しい発想が生まれた。
- ・仲間と課題を探したり、解決策を考えたりする楽しさを知ることができた。
- ・今回の活動を通して、探究することが楽しいと感じ、またこのような体験をしてみたいと思いました。
- ・自分の想像以上に良い探究ができて、すぐに探究がしたくなった。
- ・今回探究をしてみて疑問を解決したら新たに疑問やアイデアが浮かぶ楽しさを知ることができた。
- ・いろんな地域の生徒と交流ができて、各高校の新しい一面を知れて楽しかった。また、自分自身の新しい一面や今まで気付かなかった能力にも気付けた。

《成果と課題》

- 活動の多くはグループワークであることから、今年度は最初に「良いグループワークの進め方」の講義を設定した。多くの参加者から、「その後のグループワークを進める上で、非常に参考となり、良いグループワークを行うことができた」と好評であった。
- 9校から32名、また県外の高校からも参加があり、講義・演習においては様々な意見交換がなされた。最終日の発表では、予定時間を大幅に延長するほど、熱心な発表や質疑応答がなされ、参加者にとってより深い学びへとつながった。
- 今年度も、宿泊者同士の交流会（体育館でのスポーツ）を企画した。良いリフレッシュの場になるとともに、参加者の交流の場ともなり、より多くのコミュニケーションを図ることができたことが、期間中を通してのグループワークに良い影響を与えたと思われる。
- 昨年度より、講義を一コマ増やすことで、最終日の資料作成の時間が短くなってしまった。しかし、この一コマ増及びカリキュラムの構成自体は参加者にとって、非常に好評であったため、今年度の方法は維持した方が良く感じた。
- けがや体調不良により、早退者が出てしまったことが、参加者にとっても運営側にとっても残念であった。